軌道に乗る広域消防

(六分に分遣所建設始まる)

白根市、味方、月潟、中之口村の一市三村が消防の強化を図るため昨年十一月一日白根地区消防本部(署)を設置したことは、すでに広報を通じおしらせのとおりです。

この消防事務組合では、すでに昭和44年度の事業決定中、職員増強のため11名採用と指令車(ウイリスジープ)を購入しましたが、次のものについては諸事の都合もあり実施出来ず、其の後再度審議を重ね一部変更などもして昭和45年で実施することになりました。

1. 六分、分遣所の建設
2. 六分、分遣所用消防ポンプ自動車一台購入
3. 無線の短波を超短波に切替えること。

以上

広域消防に欠かせない施設、機械の充実などの目的で決定したことである。

早速六分分遣所建設が(両郡橋下手)に決定し総工費三、七七五千円で㈱宮川組が落札となり去る四月二十日現場に於て関係市町村長、消防関係者参列の上地鎮祭が行なわれました。直ちに着工となり六月末日完成の見込みです。

(危険物の取締り)

危険物行政も広域消防の設立によって、県直轄から、この広域消防に変更され、今後危険物に関する一切の検査や、届出は白根地区消防署で取扱いすることになりましたから御承知下さい。

昭和45年度総合検診

本年度の総合検診の日程が、決まりました。

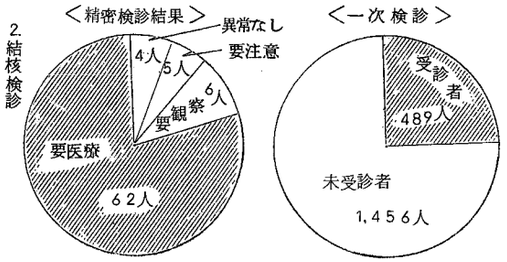
月日	時間	会場
6月1日	10時～3時	月潟中学校
6月2日	10時～12時	満徳寺
	1時～3時	曲公民館
6月3日	10時～3時	西小学校

◎昭和44年度総合検診結果

全体として受診率が年々減っています。しかし、脳卒中で死ぬ人はふえる一方。又、結核の発病者も後をたちません。

1. 血圧検診

受ける人がたいへん少いのですが、そのうち三人に一人は血圧に異常があります。そして精密検診を受けた人の八割は治療が必要という結果です。



2. 結核検診

まだまだ受けない人が多く、中でも三年間一度も受けてない人が一六四人います。

		全村	大別当月潟西萱場地区	曲地区	西地区
一次検診対象者		1,945	1,196	294	455
一次検診受診者		(25%) 489	(23%) 275	(27%) 79	(30%) 135
精密検診該当者		142	93	16	33
精密検診受診者		(54%) 77	(50%) 46	(63%) 10	(64%) 21
受診内訳	異常なし	4	1	2	1
	要注意	5	3	0	2
	要観察	6	3	0	3
	要医療	62	39	8	15

( )内は受診率

◎年に一度の健康診断で自分の健康を確かめておきましょう。
◎脳卒中でたおれるのを防ぎましょう。
◎三年未受検診をなくしましょう。

こどもを水から守りましょう

春先は毎年のように幼児の水死事故が増加していますが、幼児の水死事故原因のほとんどは子守りが目を離したすきに起きています。

農繁期はお互いにねこの手もかりたいほど忙しく、子守りはたいてい老人が多い。その老人が留守番や、炊事までするのでこどもから目を離しがちであり、なかには可愛い孫を死なせた責任を感じ自殺した老婆もいます。

大人から見れば、予想も出来ないわずかなところでも、幼児の命とりになるところが沢山あります。たとえば、庭池、下水溝、浴槽、水桶などさまざまですが、もう一度点検し、幼児にとって危険と思われるものに対しては、充分注意しましょう。

万一水死寸前になった幼児等を発見したときは、すぐ医師を呼ぶと同時に、一刻も早く人工呼吸をして下さい。

この人工呼吸も一分遅れることにより大変なことになりますので一秒でも早く人工呼吸をして下さい。本村からは水死事故が一件も出さないよう注意しましょう。

		全村	大別当月潟西萱場地区	曲地区	西地区
対象者		2,173	1,264	323	586
受診者		1,685	973	258	454
受診率		(77.5%)	(77%)	(79.9%)	(77.5%)
精密検診該当者		66	43	7	16
精密検診受診者		42	25	6	11
受診率		(63.6%)	(58.1%)	(85.7%)	(68.8%)
内訳	異常なし	25	16	3	6
	要観察	15	8	2	5
	要医療	2	1	1	0

役場の日誌

(主なもの)

四月一日～三十一日

4月2日　広報委員会
4日　東小、西小共入学式
5日　月潟保育園入園式
6日　例月検査
　　赤ちゃん二才児表彰式
8日　民生委員会
11日　教育委員会
16日　食品関係説明会
20日　学校関係衛生事業打合会議
21日　農地取得資金審査会
22日　選挙管理委員会
23日　農業委員会
24日　村内医師と懇談会
26日　選挙、投・開票
28日　衛生委員会打合会
30日　納税組合長会議

ー訂正おわびー

広報つきがた四月発行第5号中、左記の通り誤字がありましたから訂正しておわびします。

記

第一頁、村長の施政方針中最後から三行目、「誠実、努力、勤俟の」とあるのを「誠実、努力、勤勉の」に訂正します。

環境を整備し明るく健康な村作りを

桜も散り暖かくなって来ますと、ハエ、蚊等の衛生害虫が発生し私達の生活をおびやかします。だれでもハエも蚊もいない環境のよいところで生活したいと希っておりますが、実際には多額の経費と多大の労力をついやしてもなかなか減らないのが現実であります。今年も部落毎に防除計画を樹てられていますが、一部の役員だけが一生懸命になっても皆さんの協力がなければ効果は期待出来ません。

ハエや蚊は種類により発生場所が違います。生態、発生場所をよく知り薬剤を撒く場所、量、方法等を正しく知ることも必要と思います。

◎これだけは是非実施して下さい。
①家屋内外の大掃除
②下水溝の泥上げ
③堤防等の草刈り
④ごみを捨てない

県でも4月20日～5月19日迄春の環境衛生月間として環境整備を呼びかけております。今年こそは快適な夏を送れるよう努めて下さい。

戸籍法の一部が改正になりました

出生、死亡の届出は、従来事件発生地(出生地・死亡地)に限定されておりましたが、今回改正され四月一日より事件発生地のほか事件本人の本籍地又は、届出人の所在地でも届出する事が出来るように改正されたのでお知らせします。

ハエの種類と発生場所

発生場所 ＼ 種類	厨介系列 ごみ箱	厨介系列 野積	糞尿系列 便池	糞尿系列 野溜	家畜系列 豚舎	家畜系列 鶏舎	家畜系列 堆肥	その他 物体 動屍	その他 野糞	その他 物桶 漬
イエバエ	◎	◎	―	―	◎	◎	◎	―	―	―
ヒメイエバエ	○	○	◎	○	○	◎	◎	○	○	◎
オオイエバエ	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○	◎
ヒロズキンバエ	◎	◎	―	―	―	―	―	○	○	―
ナミキンバエ	○	◎	―	―	―	―	―	◎	◎	―
クロバエ	◎	◎	◎	◎	○	○	○	◎	◎	―
ニクバエ	○	○	◎	◎	○	○	○	◎	◎	―
サシバエ	―	―	―	―	◎	◎	◎	―	―	―

◎多数発生する
○やや多く発生する
0小数だが発生する
―発生しない

舗装工事はじまる

村道第一号線及第六号線(東部用水路沿え)の舗装工事がいよいよ着工され急ピッチに進められております。この事業は昭和四十四年度、四十五年度予算を併せて施工されたものであり完成のあかつきは、車輛通行もスムーズになります。又財源がゆるすなれば、本年度は舗装事業を引続き実施される見込です。

健康メモ

成人病の手がかり

働きざかりの安全をおびやかす成人病、その初期症状はたいていい問題にならないくらい軽く、苦痛がありません。しかしこの時期に見つかれば進行をくいとめることは簡単です。疲れやすいのが糖尿病の初期、気分がいらいらしたり物忘れのつよいのが高血圧の初期だったり、頑固な空咳が肺ガンのはじまりだったり、寝おきに体のこわばっているのがリュウマチ一年生だったり、胃の悪い感じが胆石だったり、とにかくとるに足らない軽い症状、それが大切な手がかりです。

どんなに丈夫にみえても、三十五をすぎたら年に一、二回の定期検診は欠かせないということになりましょう。

村の史跡めぐり　No.1

柏原山、満徳寺経蔵

御釈迦様一代の御説法、五千四十八巻の経典をはじめ、いわゆる一切経を納めてある満徳寺経蔵は、四間四面の絨欅造りで、二層銅板葺屋根よりなり、屋上には唐金造りの相輪があがっている。(写真一)その棟上げは天保十三甲年八月三日(一八四二)で、願主廿三世住職の末男好松院永照、当時七十四才、工匠若林本蔵藤原光好等と棟板に記されている。

さて経蔵(又は経堂等とも云う)に一切経を納めるについては、経蔵内に一柱にして機輪を設け、障碍なく転廻する輪蔵と云うものをつくって収めるようになっている。(写真二)経蔵と云うものはすでに印度にあったが、輪蔵を造って一切経を納めるようになったのは、達磨大師が支那にこられる少し前に、当時の皇帝梁の武帝の信仰を受けていられた伝大士と云う在家の菩薩の時からであった。伝大士は諸方の寺に経蔵が立ち一切経が納っていても、字を知る者が少く、又字を知っていても一切経を披閲する暇なき者の為に転輪の蔵を考えられ、信心の者が一度廻転させると、一切経を読んだと同じ功徳ありとして之を創成されたと云う。満徳寺経蔵内には八角につくられたこの輪蔵を設け、真中に釈尊像を安置し満徳寺版一切経が納っている。

輪蔵の中心の一柱には、当時天保十四癸卯歳閏九月十九日(一八四三)とその完成時が記されている。

輪蔵内の満徳寺版一切経は、前記好松院が東都(江戸)にあって、文化八年辛末年六月三日(一八一一)版を興し、文政五壬午年正月廿三日(一八二〇)に十二ケ年の歳月をついやして完成したものである。(写真三)そして之が完成後前記経蔵を造り納置されたのであるが、明治二十二年六月廿三日の祝融にあたって、たまたま閲読の為本堂内に移されておりその三分の一くらいを類焼してしまった。

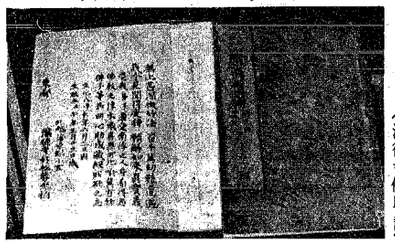
尚かゝる輪蔵のある経蔵には、創成者の伝大士の徳を称えてその木像を、若い時に妙光という妻を貰い、普建、普成という二人の子供があったので、その子供の木像を両脇に立てて安置するを常としているので、当経蔵内にも之が安置してある。

ちなみに之等一切の建立、興版の資金については、多く江戸在住の諸大名から寄せられたようで、寄進者の位牌が納められてある事や、堂の八隅にさげられた風鐸にきざまれた寄進者名からもこの事が察し得られた。しかしこの風鐸については戦時供出させられ今は別の物がさげられている。

さらにこの経蔵内には寺宝の丈六の大和如来、阿弥陀尊像を縁あって安置してあるが、これについては他日にゆずる事にする。

(満徳寺住職記)

写真(一)　写真(二)



写真(三)